

第29回夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ

—雨とメソスケール気象—

教育と普及委員会

主催：日本気象学会

後援：気象庁，日本地学教育学会，(財)日本気象協会

●この講座は最新の気象学の普及を目指して，毎年開催しています。小・中・高校の理科担当の先生方の他に，気象学に興味をお持ちの学生や一般の方を対象にカリキュラムを組んでいます。

今回は「雨とメソスケール気象」と題して開催することになりました。メソスケール気象とは集中豪雨や雷雨，強風など，数 km から 1000 km 程度の広がりを持つ大気現象を指します。これらは社会に重大な災害をもたらすこともあり，重要な研究対象となっています。講義ではこれまでに得られた知見，また観測や予報の方法などについて解説します。

受講料：一般5,500円，教員5,000円，気象学会員・日本地学教育学会員・学生4,500円(消費税含む)

日時：平成7年8月1日(火)9時(受付開始)

8月3日(木)15時まで

ただし，8月3日「天気図の作り方」は希望者のみの参加とします。

会場：東京都千代田区神田錦町3-21

千代田区立中小企業センター

Tel. 03-3233-1461

(ただし夏季大学についての問い合わせは気象学会事務局までお願いします)

●往復はがきの往信に以下の必要事項を，復信には宛先を記入してお申し込み下さい。受付次第，返信をお送りします。

1. 「夏季大学参加希望」
2. 住所・氏名・年齢
3. 職業 (該当する方は「気象学会員」または「地学教育学会員」の別を，あわせて記入願います)
4. 連絡先電話番号
5. テキストの送付先
(住所と同じ場合は省略して構いません)

申込先：〒100 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁内 日本気象学会事務局

申込締切：平成7年7月14日(金) 必着

ただし，定員(約100名)に達しましたら締め切らせて頂きます。

支払方法：返信受け取り後，郵便振替によりお支払いください。テキストをお送りします。なお，口座番号等は返信によりお知らせいたします。

その他：1日目に懇親会を，2日目に気象庁見学を開催します。いずれも参加は希望者のみです。

●テキストのみ希望される方は，必要部数をはがきでお申し込み下さい。テキストと振替用紙をお送りします。代金は1部1,000円送料240円です。刊行部数が少ないので早めにお申し込み下さい。

●会場への交通

東西線

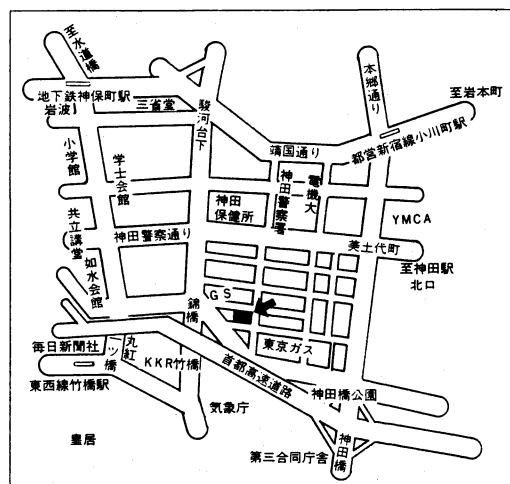
竹橋駅下車徒歩5分

半蔵門線，三田線，新宿線

神保町駅下車徒歩10分

千代田線，丸の内線

大手町駅下車徒歩10～15分



●お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局

Tel. 03-3212-8341 (内線2546)

Fax. 03-3216-4401

第29回夏季大学「新しい気象学」—雨とメソスケール気象— 講義時間表

	10:00~11:30	13:00~14:30	14:45~16:15	16:30~
8月1日 (火)	激しい降水を伴う メソスケール擾乱 吉崎正憲 (気象研究所)	気象衛星から見たメソ気象 隈部良司 (気象衛星センター)	集中豪雨の実態 渡部浩章 (気象庁予報課)	懇親会 (1時間 半程度)
	竜巻、突風、雷、雹などをも たらすスーパーセルと呼ばれる 組織化したメソ降水系で重 要な働きをする様々なプロセ スを眺めてみる。	日本周辺のメソ現象が静止気 象衛星「ひまわり」によっ てどのように見えるか、可視・ 赤外画像のムービーによっ て示す。	「昭和57年7月豪雨(長崎豪 雨)」と「昭和58年7月豪雨(山 陰豪雨)」の解析例を紹介し、 梅雨前線による豪雨の実態を 示す。	
8月2日 (水)	確率予報とナウキャスト 立平良三 (電気通信大)	レーダーとメソ気象 石原正仁 (気象庁測器室)	雷の気象学 北川信一郎 (元埼玉大)	気象庁 施設見 学
	確率形式の予報や数時間先ま でのきめ細かな予報(ナウ キャスト)の登場の背景とこ れらを使いこなすのに必要な 基礎知識を解説する。	気象の観測に威力を発揮する 気象レーダー・ドップラー レーダーについて解説して、 メソ降水現象の構造を考え る。	①雷とは?雷放雷の規模②雲 粒と降水③どんな雲が雷を起 こす?④季節・緯度による相 違⑤落雷と安全対策について 解説する。	
8月3日 (木)	天気図の作り方 —基礎編— 永沢義嗣(気象庁予報課)	天気図の作り方 —実際編— 永沢義嗣(気急庁予報課) (15:00まで)		
	天気図は何を表しているか、 天気図から何が読みとれる か、天気図とは何か。	午前の講義をもとに、実際の 天気図作成を試み、天気図の 意味を考える。		